

平成30年度 調布市石原小学校 学校経営計画

学校教育目標

◎根気よく学ぶ子 ○明るく元気な子 ○なかよく助け合う子

目指す学校像(ビジョン)

「子どもたち一人一人を大切に作る学校」

【子どもたちが主役である学校】一人一人の子どもが大切にされ、その中で、豊かな心、確かな学力、健やかな身体がはぐくまれてゆかなければならない。子どもたちはそれぞれ、違う環境で育ち、違う心と個性、願いをもって生きている。子どもたちが、自分は大切にされ尊重されていると感じ、安心して生活して学ぶことができる学校を目指す。

【教職員が子どもたちを愛する学校】子どもに対する教職員の愛情を土壌に、子どもたちの「学びたい」「できるようにになりたい」という意欲を種として、日々の授業の充実により、子どもたちそれぞれの力、個性を伸ばしていく。教職員は、子どもたち一人一人の幸せを思い、子どもたちを理解することに努めるとともに、その達成のための手立てを考え、職務を振り返り、改善・工夫のための自己研鑽に努める。

本校の現状と課題

- 明るく闊達な子どもが多く、学習や行事に前向きに取り組んでいる。学習意欲はあるが、学習内容の定着にはばつきが見られる。授業の工夫・充実、個に応じた支援が必要である。
- 授業規律や基本的な生活習慣等、集団生活の態度を一層身に付けさせる必要がある。また、個別に支援を要する子どもについては全体で見守り、指導するとともに、関係諸機関との連携を図る。
- 学力向上や生活指導の充実のために、教師の授業力向上・資質向上が必要である。

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標
				※ 数値目標が可能な項目について設定する
学力向上	基礎基本を定着させ、 進んで考え表現する児童を 育成する。	学びの基礎となる授業スタイルと授業規律を確立し、全校で共有することにより、学習効果を高める。	○授業規律「石原スタンダード」を、各教科で整備し、徹底する。 ○子どもたちが主体的に活動する授業を目指す。そのために、教員のショートタイム研修会の設定、先行研究や指導法の研究、調布中との共同研修等に取り組む。	◇学校関係者アンケートにおいて、学習内容の理解や授業の工夫に関する肯定的回答85%を目指す。
		外国語（英語）活動を中心に、「対話を通して主体的に学習する子ども」の育成を図る。	○英語活動において主体的・対話的な授業を重視し、表現力を育てる授業改善を進める。 ○授業研究（年5回以上）を中心に、校内研究において外国語活動等における指導法を共有し、指導の効果を上げる。 ○調布市研究推進校の指定を受け、授業改善を進める。	◇「児童生徒の学力向上を図るための調査」において、A・B層を5%以上増やす。
健全育成	自律した行動のとれる 児童を育成する。	基本的な生活習慣を定着させ、規範意識をはぐくむ。	○生活指導全体会・生活指導夕会・校内委員会により、児童の状況を共通理解し、生活指導・教育相談の充実を図る。 ○本校の伝統的な活動（あいさつ、6年のスピーチ等々）を継続・充実させる。 ○開校60周年行事を通して、学校・地域への愛着、自らが一員であることの意識を育てる。 ○いしむら教室（校内通級教室）での個別指導により、個々の子どもの「困り感」を解決していく。 ○諸機関と連携し、児童の課題や成育歴を把握し、きめ細やかな生活指導を行う。	◇学校関係者アンケートにおいて、学校のきまりを守ることにに関する肯定的回答85%を目指す。 ◇いじめの早期発見と解決100%を目指す。 ◇アレルギー事故、交通事故0を目指す。
		安全・安心な学校生活を確立する。	【いじめの根絶】定期的な状況把握、いじめ防止対策委員会の組織的な対応を行い、未然防止と早期解決を図る。 【アレルギー対応】アレルギー対応のルールの実施とともに、正しい知識を全児童に身に付けさせる。 【防災教育】防災教育の日の充実。地域との連携。 【登下校の安全確保】富士見パトロール隊やPTAの協力を得て、登下校の見守りを充実させる。	
健康・体力づくり	健康保持・体力増進のために考え、判断し、実践する児童を育成する。	児童の健康・体力増進への関心を高め、健康や体力について進んで調べたり、運動に取り組んだりすることができる児童を育てる。	○オリンピック・パラリンピック教育推進校の取り組み ①アスリートや障害者を招き、交流・体験活動を充実させる。 ②国際理解教育、障害理解教育を推進し、交流を図る。 ③マラソン大会、なわとび集会等に全校で取り組む。また、運動の日常化を図る。 ○保健計画をもとに意図的・計画的に保健指導、安全指導を行う。	◇学校関係者アンケートにおいて、心や体の健康に関する肯定的回答85%を目指す。 ◇体力向上に関する肯定的回答85%を目指す。
保護者・地域との連携	保護者・地域との連携・協力を進め、学校の教育活動、児童の安全確保を充実させる。	保護者・地域の方の教育力を組織的・計画的に活用し、教育活動や防災・防犯等を充実させる。 学校の方針・活動について、地域・保護者の理解を得て、学校・地域・保護者がともに児童を見守る関係を構築する。	○開校60周年記念行事に、保護者・地域の協力を得ることにより、三者のさらなる連携を深める。 ○保護者・地域の方をゲストティーチャーとして、教科授業や行事を充実させる。 ○登下校見守りや防災訓練の協力を得る。 ○「学校と家庭の連携推進事業」（東京都教育委員会）により、スーパーバイザー、支援員の指導・支援を得る。 ○保護者会、地区協議会、健全育成委員会、学校開放運営委員会等を通して、学校経営方針や学校の教育活動について、保護者・地域の理解・協力を得る。 ○教職員が、地域行事に積極的に参加していく。	◇学校関係者評価アンケートにおいて、開かれた学校づくり、学校と地域・PTAとの連携に関する肯定的回答85%を目指す。
特色ある教育活動	子どもたち一人一人の個性を大切にし、伸ばしていく。	個々の状況に応じた指導、個性を伸ばす指導を行い、一人一人の児童の学力の定着・向上を図る。	○算数習熟度別指導（中高）、算数TT指導（低）を行い、児童の学習状況に応じた細やかな指導を行う。 ○日本語指導担当教員・特別支援教室専門員・スクールサポーター等による授業補助、個別指導を行う。 ○いしむら教室の専門的な指導ノウハウを校内で共有し、各学級での指導・支援を充実させる。	◇学校関係者評価アンケートにおいて、児童の学習意欲に関する肯定的回答85%を目指す。
		文化芸文活動を通して児童の興味関心を広げ、「豊かな心」を育むとともに、「確かな学力」の基礎を醸成する。	○開校60周年記念の集会等を通して、自主的な態度を育成していく。 ○日々の読書指導と読書週間を軸に、読書活動を充実させる。 ○児童の知的関心を高める文化行事を発達段階に合わせて実施する。（コンサート体験、落語鑑賞、演劇鑑賞、読み聞かせ、美術鑑賞、作家による作文教室等々）	